資料1

第２回委員会における意見の概要

平成29年1月25日

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

第２回委員会における意見の概要

【第１回委員会における意見、ヒアリング結果について】

広く日本国民、世界に向けた発信について

【委員意見（要旨）】

・喜んだり楽しんだりというような気持ちは共感を呼びやすく、ヒアリングで示された感謝の気持ちや、人の役に立っているという気持ちは、福島県の復興祈念公園が広く国民や世界に向けて発信していく際に重要である。（横張委員長）

被災者の思いに寄り添うことについて

【委員意見（要旨）】

・涌井委員のよすがのこと、ヒアリング結果にある早川氏の、まちづくりの負の側面だけを強調しないこと、まちづくりを考えていく段階にないと感じている人が少なくないこと、これから考え方がさまざまに変わっていくのではないかということ等に共感する。（櫻井委員）

・被災者の状況は、県外で暮らすことを決めた方、帰還する方など多様であるとともに、被災者の思いは複雑であり、それに応え、寄り添う公園のあり方が大事である。（櫻井委員）

【事務局が提示した基本構想策定に向けた考え方と委員意見（要旨）】

基本構想策定に向けた、公園予定地における追悼と鎮魂の場のあり方について

【委員意見（要旨）】

・福島の人々が海や原子力災害をどう捉えているのか、これまでの議論をふまえて基本構想に反映すべきである。（舟引委員）

・福島第一原子力発電所からの避難、震災関連死が多数出ているということは、福島ならではの祈念公園として不可欠な事項である。（本間氏（馬場行政委員代理））

第２回委員会における意見の概要

基本構想策定に向けた、公園予定地における伝承の場のあり方について

【委員意見（要旨）】

・福島県では、震災の記憶と教訓を次世代にどう継承していくかが重要な課題である。次世代を惹き付け、育てるという視点を持った伝承が必要である。（櫻井委員、市岡委員）

・発災から今日まで、福島県がどのような影響を受け、地域の人々が長期にわたり避難を行ってきたかを、しっかりと具体的に示していくべきである。（涌井委員）

・いろいろな思いを持っておられる人たちが公園で出会うことでコミュニティができ、その中で自然発生的に祭りが繰り返されていく本当の意味での血の通った伝承ができるような施設を創るというぐらいの踏み込み方が重要である。（涌井委員）

・居住の形が多様化する中、自分のふるさとがそこにあることが望ましいが、それが叶わなくても帰れる場所があること、または帰れる場所がなくてもそこに行けば自分のふるさとの香りや味が満喫できることが望ましく、そのような場所を創ることが今後の日本や世界にとって重要である。（横張委員長、涌井委員）

・福島県全体の絆を深める場、心の拠り所となることが大事だと思う。（本間氏（馬場行政委員代理））

・行政や住民が発災後にとった行動が次の復興につながるように示せればよい。（長林委員）

基本構想策定に向けた、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信の場のあり方について

【委員意見（要旨）】

・福島県全体が被災を受けたというところに立脚して情報を発信してほしい。（市岡委員）

・福島県が元気になっていく姿や魅力を確認でき、それらを発信していく場となること、復興が進むプロセスを示していくこと、公園を核とした交流が重要である。（本間氏（馬場行政委員代理））

・復興祈念公園が表現していくべきものには、地域の文化、人々の活気、暮らし、楽しみが当然含まれる。（横張委員長、櫻井委員）

第２回委員会における意見の概要

【第２回委員会において委員より示された基本構想策定に向けた考え方（要旨）】

◆　公園だけでなく広域で地域全体の復興を考える

【委員意見（要旨）】
・広域的に、公園的な土地利用をもっと積極的に明示していく必要がある。（涌井委員）
・アーカイブ拠点施設との連携についても具体的に示すべき。（舟引委員、金田氏（伊澤行政委員代理））

◆　公園の空間デザインにつながる検討が必要である

【委員意見（要旨）】
・この地域や復興祈念公園に求められている役割を明らかにしていく必要がある。（舟引委員）
・どの段階で、どのような主体が、どのようなメッセージを発信するのかを考える必要がある。福島の復興祈念公園で最終的にどのメッセージを最優先してそこに表現をするのかということを考えなければいけない。（舟引委員、金田氏（伊澤行政委員代理））

◆　次第につくり上げていく公園

【委員意見（要旨）】
・福島県が被災を乗り越えていく取組みを国民とともに一緒になって考えていくという場所であるとすると、完成形ではなく、地域住民の方や公園を訪れる来訪者の方が、共にしだいにつくり上げていく施設であってほしい。（横張委員長、市岡委員、桜井委員、涌井委員）